

朱子学の現在

日時：2026年1月10日(土)13:00～17:00

場所：二松学舎大学
九段キャンパス1号館202教室

—プログラム—

13:00～13:10 開会・趣旨説明 **牧角 悦子**（二松学舎大学陽明学研究センター長）

13:10～14:10 講演 **藤井 倫明**（九州大学准教授）

朱子学と陽明学
—その思想構造の異同をめぐって—

14:10～14:40 報告① **松野 敏之**（国土舘大学教授）

朱熹と注釈

14:40～15:10 報告② **福谷 彬**（京都大学准教授）

理念と制度のあいだ
—朱子学と陽明学の実践的射程—

15:10～15:40 報告③ **田中 有紀**（東京大学准教授）

江永における「道問学」と「尊徳性」
：『近思録集注』及び「考訂朱子世家」をめぐって

15:40～16:10 報告④ **大森 幹太**（二松学舎大学大学院博士後期課程）

道学形成史における程顥の位置の再検討
—「物」観念を手掛かりとして—

16:10～16:30 休憩

16:30～17:00 総合討論・総括
司会 **小島 毅**（東京大学教授）

17:00 閉会

入場無料・予約不要

- 地下鉄 メトロ東西線・半蔵門線、都営新宿線
「九段下」駅下車、2番出口より徒歩8分
- JR「市ヶ谷」「飯田橋」駅下車、徒歩15分
- ※会場には駐車場がありません。お車でのご来場はご遠慮ください。



シンポジウム趣旨

朱子学と陽明学は対立的に捉えられることが多い。もちろんそれは理気論や修養論において、大きな相違を持つものである。しかし反対にそれぞれ儒教の時代的要請に応じて生まれた思想であるという意味では、同質の背景と趣旨とを持つ部分もあるであろう。

近年では、二者の相違点のみならず、同様の志向に目を向ける研究が増えている。そこで、本研究センターにおいても、陽明学に特化する方向ではなく、朱子学をも視野に入れた大きな展開を考えていく上で、敢えて朱子学研究に目を向けたシンポジウムを企画してみた。

朱子学は日本思想にも影響を与えた重要な学問である。しかし近年の学术界において、その研究者は必ずしも豊富ではない。朱子学・陽明学のみならず、中国学全体の研究者人口の激減に加えて、古典学や思想研究を志す次世代の研究者が年々少なくなっているのが原因である。社会全体が役に立つ学問を推奨する中で、古典や思想そのものの学問に意志を以て取り組むことの困難は、特に若手研究者にとって切実である。

とはいえ我々は、今できることを確認し、これからの斯学の展開に何某かの可能性を模索しなければならないだろう。そこで今回は、日本における朱子学研究の現在を確認し、今後の可能性を探る検討会を開催したい。